

令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業
評価報告書（イノシシ）

（香川県 環境森林部みどり保全課）

基本評価シート（イノシシ）

1. 事業の基本情報

事業名（※1）	指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画策定		
	指定管理鳥獣の捕獲等		
都道府県名	香川県	担当者部・係名	みどり保全課
担当者名		担当者連絡先	087-832-3212
捕獲実施事業者	㈱野生鳥獣対策連携センター (認定を受けている)	予算額（※2）	8,932,000 円
		予算額の内捕獲に要する経費（※3）	5,988,400 円

（※1）交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。

（※2）予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算のうち、イノシシ相当額を記入。

（※3）予算額の内、捕獲に要する経費は、平成28年度から適用される交付金所要額調書様式1-2「2 指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳のうち、イノシシ相当額を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

○令和6年度における生息等の状況及びこれまでの個体群管理の取組み

〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

事業目標 (目標頭数などの数値目標)	実施結果	
	捕獲頭数	目標達成率
目標頭数 44 頭	55 頭	137.5%

〈生息等の状況及びその他の捕獲実績〉

推定生息頭数	特定計画管理目標	目標生息頭数
42,438 頭	12,000 頭以上	40,000 頭
狩猟捕獲数	許可捕獲(有害)	許可捕獲(個体数調整)
頭	頭	55 頭

○これまでの個体群管理の取組み（都道府県単独事業）

- ・狩猟期間の延長、禁止猟法の一部解除、休猟区における特例制度の活用
- ・積極的な有害鳥獣捕獲の推進
- ・市町を対象とした捕獲資機材の整備等に係る経費の助成

2. 令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業の実施概要

項目	概要
事業背景・目的	令和5年度は県全体でイノシシによる人身事故が3件発生しており、令和4年度の9件と比較して減少した。捕獲頭数を見ると令和5年度は9,095頭のイノシシが捕獲されており、第二種特定鳥獣管理計画における単年度計画の目標頭数（10,000～12,000頭）を達成することができなかった。令和4年度の捕獲数（15,680頭）と比較すると、約6500頭の減少となっている。 令和6年度についても住居集合地域等への人的被害を防止することを目的として有害鳥獣捕獲では実施が困難な地域を対象にイノシシの捕獲を継続して強化し、第二種特定鳥獣管理計画の目標達成を図ることとした。
	【選択欄】 ☐ 特定計画の管理目標に不足する捕獲数を高密度地域で上乘せした。 ☐ 分布拡大防止を目的として生息域の外縁で捕獲を実施した。 ☐ 効果的な捕獲手法の開発を行なった。
人材育成の観点	☐ 人材を育成するための配慮、取組がなされている。
実施期間	令和6年8月13日～令和7年3月17日 (捕獲を行った期間 令和6年8月19日～令和7年2月22日)
実施区域	高松市
関係機関との協力	安全に本事業を遂行するため、関係市町、地元狩猟者と協議し、事業実施時期やわなの設置場所の調整を行った。
事業の捕獲目標	(137.5%達成) = (55頭 実績値) / (44頭 目標値)
捕獲手法	【銃猟】 ☐ 誘引狙撃 ☐ 巻き狩り ☐ 忍び猟 ☐ モバイルカリング ☐ 夜間銃猟 ☐ その他 () 【わな猟】 ☒ くくりわな ☐ 箱わな ☐ 囲いわな ☐ その他 ()
捕獲個体の確認方法	☐ 個体の身体の一部（耳、尾など） ☒ 写真（詳細を記載：ウェブデータベースに登録） ☐ その他 ()
捕獲個体の処分	捕獲個体の処分について ☒ 全て焼却又は埋設を行っている。 ☐ 一部、食肉等への活用を行っている。 ☐ 一部、放置を認めている。

環境への影響への配慮	わなによる錯誤捕獲について ☒ 錯誤捕獲の情報を収集している。 ☐ 錯誤捕獲の実態は不明である。
	わなによる錯誤捕獲の未然防止について ☐ 錯誤捕獲の防止対策をしている。 (内容：) ☐ 錯誤捕獲の防止対策はしていない。
	鳥類の鉛中毒等について ☒ 鳥類の鉛中毒症例がない。 ☐ 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。
	鉛製銃弾について ☐ 全て鉛製銃弾を使用している。 ☐ 一部、非鉛製銃弾を使用している。 ☐ 全て非鉛製銃弾を使用している。
安全管理の体制	・作業実施時に注意標識を設置 ・緊急時の連絡体制の整備
捕獲従事者の体制	【雇用体制】 事業従事者数：11 人 (内訳) 正規雇用者：11 人、期間雇用者：0 人、日当制等：0 人

3. 令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業の評価

○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標達成】	評価:令和6年度は目標44頭に対して実績55頭であり、達成率は137.5%と令和5年度の100.0%を上回った。また、CPUEが増加、捕獲個体の雌の割合が増加した。幼獣成獣比については幼獣の捕獲割合が増加した。
	改善点：なし
【実施期間】	評価：高松市で44日間の捕獲期間を確保した。
	改善点：なし
【実施区域】	評価：有害鳥獣捕獲で対応が困難な地域を対象として捕獲を実施した。捕獲前後の痕跡調査結果により女木島では痕跡数の減少し、ヒアリングにおいても目撃や被害が減少した。一方で男木島では痕跡調査とヒアリング共に捕獲前後で結果に変化がなく、現状の捕獲頭数で不十分と考えられた。現状以上の捕獲圧を引き続きかけていくことが必要である。
	改善点：より高い捕獲圧をかけていくため、目標頭数の増加や捕獲規模拡大を検討する。
【捕獲手法】	評価：くくりわなの効果的な設置方法についてはほぼ確立しつつある。エサ誘引くくりわななど技術開発を行っており、更なる効率向上に向けた取り組みを行っていく必要がある。

	改善点：引き続き、効果的な捕獲方法の開発、現場における痕跡調査を行い、データの蓄積に努める。
--	--

2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：各地域に必要な捕獲従事者を配置することができ、必要な捕獲努力量を確保することができた。
	改善点：なし
【個体処分】	評価：廃棄物処理業者への処理委託を行った。CSF の感染拡大予防のため、食肉としての活用は行わなかった。
	改善点：なし
【環境配慮】	評価：令和 6 年度及び令和 5 年度に錯誤捕獲は発生しなかった。
	改善点：なし
【安全管理】	評価：注意喚起看板等の設置を行うとともに、地域住民への注意喚起を徹底した結果、大きなトラブル等はなかった。
	改善点：なし
3. その他の事項に関する評価及び改善点 なし	
4. 全体評価 令和 5 年度から引き続き男木島及び女木島での捕獲となった。実施区域全体として捕獲目標の 44 頭を超える 55 頭が捕獲され、令和 5 年度と比較して CPUE が増加した。女木島では被害抑制が期待できる一定数の捕獲が達成できたと考えられるが、男木島では捕獲数は不十分であると評価された。いずれの実施区域でも捕獲圧の増加と継続した捕獲が望まれる。	

○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

県全体のイノシシの人身事故件数は令和 3 年度は 2 件、令和 4 年度は 9 件と増加していたが、令和 5 年度は 3 件と減少に転じた。 また、イノシシの出没件数についても令和 3 年度は 223 件、令和 4 年度 362 件と増加したが、令和 5 年度は 147 件と減少している。 イノシシは多産であり、年毎の出没傾向に大きな差がしやすいことから、出没が頻繁な地域を抽出し、地域の捕獲者と協議のうえ、本事業による対象地域として捕獲を実施していくべきと考える。

4. 必須となる記録項目

(1) データの整備状況

ア) 基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項 目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	☐ 行政区域（都道府県・市町村）ごと ☐ 事業区域ごと ☐ 5 km メッシュ ☐ 1 km メッシュ ☒ 捕獲地点（緯度経度） ☐ 捕獲等に関する位置を記録していない	
②捕獲数	☒ 捕獲した個体の総数 ☒ 雌雄の別 ☒ 幼獣・成獣の別 ☒ その他捕獲した個体に関する情報 （ 頭胴長、後足長、体重 ）	
③目撃数	☐ 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	☐ 銃猟：のべ作業人日数※ ☒ わな猟：わな稼働日数 （わな稼働日数＝わな基数×稼働日数）	

※のべ作業人日：捕獲作業期間中に捕獲に従事した作業人数の合計。事前調査や下見に費やした作業の人日数は除く。

イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

	作成できる概況図（地図）※についてチェック
捕獲位置の地図	☐ 5 km メッシュ地図 ☐ 1 km メッシュ地図 ☒ 地点（緯度経度）地図 ☐ 捕獲位置の地図を作成できない
CPUE の地図	☐ 5 km メッシュ地図 ☐ 1 km メッシュ地図 ☐ 地点（緯度経度）地図 ☒ CPUE の地図を作成できない
SPUE の地図	☐ 5 km メッシュ地図 ☐ 1 km メッシュ地図 ☐ 地点（緯度経度）地図 ☒ SPUE の地図を作成できない
概況図を作成する 上での課題	

※概況図は原則として添付する。添付できない場合は「作成できない」をチェックする。

(2) 実施結果 (必須となる記録項目)

ア) 捕獲努力量に関する事項

①銃器による捕獲 該当なし

②わなによる捕獲

外業の人日数総数※1: 104 人日

事前調査人日数概数※2: 10 人日

出猟 (捕獲作業) 人日数: 94 人日

項 目	令和 6 年度 (事業年度の値)	令和 5 年度 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量 (わな猟) わなの稼働総数 (わな基×日 数)	1,520 基日	2,087 基日	☐ 増加 ☒ 減少

※1: 事前調査人日数概数と出猟 (捕獲作業) 人日数の合計

※2: 事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

※3: ニホンジカとイノシシの合計値である。

イ) 捕獲に関する結果

①銃器による捕獲 なし

②わなによる捕獲

項 目	令和 5 年度 (事業年度の値)	令和 4 年度 (前年度の値)	増減の傾向
① 捕獲数	55 頭	55 頭	☐ 増加 ☐ 減少
②雌雄比 (雌捕獲数／全捕獲数)	27/55	18/55	☒ 増加 ☐ 減少
③幼獣・成獣比 (幼獣数／全捕獲数)	35/55	24/55	☒ 増加 ☐ 減少

令和 5 年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（わな）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数※1	CPUE※2
☒ くくりわな	55 頭	1,520 基日	0.036 頭/基日 ☒ 増加 ☐ 減少
☐ 箱わな	頭	基日	頭/基日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ 囲いわな	頭	基日	頭/基日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ その他 ()	頭	基日	頭/基日 ☐ 増加 ☐ 減少

※1:わな稼働総数には捕獲を実施していない誘因期間は含まない。

※2:CPUE＝捕獲数／わな稼働日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

エ) 捕獲個体の適切な処理

処理にかかる人工概数： 人・時間

処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数： 0 個体

適正な捕獲が実施されたかを確認する手法 捕獲個体の写真、捕獲個体と従事者を一緒に撮影した写真により確認するとともに、Web サービスを活用し、捕獲場所や処分の時間をリアルタイムで把握できるようにした。 また、一部については現地確認を実施した。

付属評価シート (イノシシ)

付属評価シートでは、基本評価シートを補足する資料として、事業の費用対効果、個体群に与えた効果、環境への負荷等を評価する。特に、指定管理鳥獣捕獲等事業に直接関係する項目は、指定管理鳥獣捕獲等事業の単年度の事業評価に直接的に関係する情報として、収集することを推奨する項目である。

1. 指定管理鳥獣捕獲等事業に直接関係する項目

(1) 費用・労力に関する項目

事業に要した費用に対する実施結果の評価は、単に、捕獲頭数当たりの総事業費で算定をするのではなく、捕獲や捕獲以外に要している労力を加味した評価とすること。

費用労力に関する評価項目		定量的評価の算定	評価する上での課題等
捕獲作業に割ける労力		捕獲経費のしめる割合＝捕獲経費÷総事業費 (67.0%) = (5,988,400) / (8,932,000)	
事業全体の中で捕獲作業以外に割く労力	事前調査に要する労力	以下、該当する算定方法にチェックをいれる。 ☒ 調査等の事業費÷総事業費 (2,943,600) / (8,932,000) ☐ 総人工数に対する調査に要する人工数の割合 (調査人工概数) / (総人工数) ☐ その他 ()	
	移動に要する労力	☒ 最も遠い作業場所において、一日当たりに要した移動時間と捕獲作業のために確保できた実働時間の例を記入 (移動時間 片道2時間) + (実働時間6時間) ☐ その他の算定方法 ()	
	捕獲個体の処理に要する労力	以下、該当する算定方法にチェックをいれる。 ☒ 処理費÷総事業費 (363,000) / (8,932,000) ☐ 総人工数に対する処分に要する人工数の割合 (処分人工概数) / (総人工数) ☐ その他 ()	

(2) 個体数の推定等に用いた生息密度指標 (CPUE、SPUE を除く)

指定管理鳥獣捕獲等事業の実施区域内において定点のある生息密度指標調査について、該当項目チェック欄にチェックする。

項目	生息密度指標チェック欄	備考
生息密度	☐ 区画法 ☐ 糞粒法 ☐ 糞塊法 ☐ ライトセンサス法 ☐ 無人撮影装置 ☒ その他 (捕獲数、市街地 出没件数)	
密度指標を、地理情報で把握している。	☒ 5km メッシュ ☐ 1km メッシュ ☐ 地点 (緯度経度) ☐ 定点	

（３）自然植生への影響の軽減に関する項目

ア）指定管理鳥獣捕獲等事業の事業区域内の植生被害状況の基礎的な調査

指定管理鳥獣捕獲等事業の事業区域内の植生被害の情報は、事業効果の測定のための基礎的な情報となる。特に、事業初年度の情報は極めて重要で、後年の事業の効果測定するための最も基礎的な情報の一つであることから、何らかの情報を収集しておくべきである。下記のチェック項目に示す定量的なデータその他、定量的なデータを取れない場合は、事業区域内の代表的な地点の写真及び撮影位置（地点と撮影方向）を記録して、地図情報として整理しておくだけでもしておいた方がよい（後年、同じ場所で同じ方向からの写真が撮れれば、比較可能である）

事業区域内における 収集項目	事業実施前又は初年度 の情報の有無	備考
①下層植生の被度	☐ 有 ☒ 無	
②指定種の被度や個体数	☐ 有 ☒ 無	
③保全対象種の被度や個体数	☐ 有 ☒ 無	
④低嗜好性植物の割合	☐ 有 ☒ 無	
⑤ブラウジングラインの形成	☐ 有 ☒ 無	
⑥土壌流出	☐ 有 ☒ 無	
⑦事業区域内の植生被害状況の写真	☐ 有 ☒ 無	

イ）被害状況の基礎的な調査

数値としてのデータがない場合でも、事業開始時点の事業地の写真は、位置情報を記録した上で取得すべきである。その際、撮影位置と撮影向きが、後で分かるように記録を取得しておく。

事業区域内における収集項目	事業開始時点の値	今年度の値	増減の傾向
①下層植生被度			☐ 増加 ☐ 減少
②指標種の被度や個体数			☐ 増加 ☐ 減少
③保全対象種の個体数			☐ 増加 ☐ 減少
④低嗜好性植物の割合			☐ 増加 ☐ 減少
⑤ブラウジングラインの形成			☐ 増加 ☐ 減少
⑥土壌流出			☐ 増加 ☐ 減少

ブラウジングラインは、「１：なし」、「２：不明瞭」、「３：明瞭」の３段階で評価。

土壌流出は、「１：ほとんどなし」、「２：にわかにより」、「３：あり」、「４：顕著」の４段階で評価。

(4) 捕獲にともなう環境への影響の評価

下記項目に関し、環境への影響に関する課題を記入する。その定量的な評価のために収集している項目があればチェックをする。集計した結果がある場合は、別添に添付する。

項目チェック欄	環境への影響に関する課題	定量的評価の算定例 (算定可能な項目にチェック)
鳥類の鉛中毒症例の把握		☐ 収容した鉛中毒症例個体の種類・数
鉛中毒防止の措置		☐ 非鉛弾の使用のための経費を計上 ☐ 非鉛弾使用数を把握
錯誤捕獲の実態 錯誤捕獲が想定される鳥獣種：野良猫		☐ 改良したわなの設置数
	(錯誤捕獲個体に対する措置) 錯誤捕獲は発生しなかった。	☐ 非標的種の種類 ☐ 非標的種の捕獲頭数 ☐ 放獣した頭数 ☐ 傷病の状況

(5) 鳥獣保護管理に係る専門家の活用状況

活用した段階ごとに、活用した登録区分の人数と活用概要を記入する。なお、活用した人数には、直接検討委員を嘱託した場合だけでなく、委託業者の従事者や事業に係る意見やアドバイスを求めた者も含めて差し支えない。活用概要には、人材登録者の取組も含めて、具体的な活用内容を記載する。

登録者の一覧は環境省 HP (<http://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort1/effort1-1/index.html>) を参照のこと。

活用した段階	専門家の 総数(数)	活用した専門家のうち、人材登録者の数			活用概要
		プランナー	コーディネーター		
			調査	捕獲	
計画の検討・策定 (必要な調査を含む)	0	1	0	0	実施計画及び調査 手法の立案
捕獲	0	0	0	1	捕獲方法及び技術 への助言と指導
捕獲手法の技術開発	0	0	0	1	捕獲技術開発への 助言と指導
捕獲情報の整理・分 析、事業評価・検証	0	0	1	0	収集情報の分析及 び事業評価
認定事業者等の育成	-	-	-	-	

2. その他の参考情報

以下は、中長期的に評価すべき項目だが、指定管理鳥獣捕獲等事業を実施し、評価する上で重要な周辺情報として、収集する事が望まれる項目である。指定管理鳥獣捕獲等事業やその上位計画である第二種特定鳥獣管理計画の目的達成状況を計るための指標となる項目でもある。下記は、基本的に、情報の有無をチェックするものである。ただし、事業地内の植生等の被害状況は、重要な情報であるため、事業開始時点の情報がある場合は、現状を記録する。

(1) 農業被害の防止に関する項目

収集項目	情報の有無		備考
農業被害金額	☒ 有	☐ 無	
農業被害面積／農地面積	☐ 有	☒ 無	
農地面積	☐ 有	☒ 無	
林業被害金額	☐ 有	☒ 無	
林業被害面積	☐ 有	☒ 無	
被害対策経費	☐ 有	☒ 無	
被害者意識アンケート	☐ 有	☒ 無	
電気柵の設置距離	☐ 有	☒ 無	
防護柵の設置距離	☐ 有	☒ 無	

(2) 生活被害の防止に関する項目

収集項目	情報の有無		備考
交通事故件数	☐ 有	☒ 無	
列車事故件数	☐ 有	☒ 無	
事故による死傷者数	☒ 有	☐ 無	
事故位置情報	☒ 有	☐ 無	
市街地目撃情報	☒ 有	☐ 無	